令和元年度　須田小学校だより　令和元年９月１３日（金）

須田っ子　第６号

学校教育目標「すすんで心や体をすこやかにする子」SA・SU・GA・DA

「そのとき、どこへ？！」　須田小・須田保育園合同避難訓練から（2019.9.6）

飛躍する

校長　内山　晋

「筋道」と「飛躍」の芽

アサガオの種を集めて大切に袋に入れる姿は、学校風物詩です。その中の一人の男の子が、ヒマワリの種を見て、「わぁ、いっぱい。これって１個から（できたの）？」と隣のお友達に話し掛けています。種が増えるメカニズムは理解していなくても、アサガオとヒマワリを比べて命の広がりに考えを繋ぐ「芽」を大切にしたいです。

「あなたも、そうでしょ。」

さらに、植物と人間を繋げて考えることは、「飛躍」があります。確かに「筋道」を立てて考えることは大切ですが、一つのこと（植物）から別のこと（自分・人間）に「置き換え」て考えることは考えを深めます。ビオトープをのぞき込む子供の口々から「めだかも、いっぱいだね。」「ぼくんちも、ちぎょがいっぱいになったよ。」と次々と飛躍の芽が開いています。

ふるさと学習も、防災教育

２学期に、地震と水害の同時発生の避難訓練を行いました。地震が発生している際に大雨による信濃川の増水の可能性がゼロとはいえないからです。また、今年は、須田保育園との合同訓練をしました。

一次避難、二次避難と、様々な状況に合わせた訓練が実施できました。

確かに、防災教育では、災害時の対応力を養うことが大きく取り上げられています。ただ、これだけだと、「地域は危険」というマイナス面にのみ目がいってしまいます。

「自分たちで守っていこう」

防災教育には、もう一つ、地域の特性を生かして暮らす地域のよさを学ぶこともあります。

須田を例に挙げれば…。

水害を防ぐために、地域に堤防を築き、水に流され得ない果樹栽培に粘り強く取り組んだ人たち。

あいさつなど子供たちへの声かけや見守りをする、ひまわり会や地域の人たち。等々。

須田に生きてきた（生きている）人たちの営みから、自分たちが、いかに地域に支えられているか、そのことを学ぶことも防災教育であり、「須田ｄｙ科（ふるさと・須田学習）」です。

「飛躍」の舞台＝地域学習

子供同士の素朴な気付きを丁寧に聞くこと、そして、学習のねらいまで高める授業、そこで身に付けた力を、地域（生活）に生かす「須田ｄｙ科（ふるさと・須田学習）」を二学期、取り組んでいきます。

SUDA

須田小　イイね！

新潟県課題図書読書感想文コンクール

最優秀賞

最優秀賞　二年

ぼくは、あそぶことが大すきです。あそんだあとは、のどがかわくので、いっぱい水をのみます。水をのむと、すっきりして元気になります。水を、れいとうこに入れるとこおりになります。ぼくは、よくむぎ茶にこおりを入れてのみます。こおりだけ口の中に入れてガリガリかむのがすきです。でも、「水とはなんじゃ？」の本をよんで、水はぼくだけのものではないことにきづきました。

まず、水はにんじゃややくしゃのようにすがたをかえることです。水じょう気という目に見えないくらい小さいつぶにかわって、あついときにはクーラーに、よるになるとふとんになって、生きものぜんぶ、そして、地きゅうを丸ごとまもっています。

さらに、ぼくたちのからだの中にえいようをはこぶようり人や、びょう気をふせぐいしゃのしごとも、しらないうちにしています。まるで、いつもだまって、ぼくをまもってくれるおとうさん、おかあさんみたいです。

そんなたいせつな水を、よごしてごめんなさい。水も、ぼくたちのように、まわりとつながりながら生きています。ぼくたち生きものもつながっている、命のわを切っていることになります。水がよごれると、ぼくたち生きものは、くるしくなります。水の生きものは、しんでしまいます。

ぼくたち二年生は、学校ビオトープで、水の生きものが、すみやすくなるためのしごとをしています。まいあさ、生えすぎた「も」をとっています。きれいなビオトープの水の中では、メダカは気もちよさそうにおよぎます。でも、どんなにとっても生えてきます。ビオトープのせん生から、水が生きるための、バクテリアという生きものがすめるばしょをつくることをおしえてもらいました。

水をきれいにもどすしくみをしらべたり、川のそうじのボランティアになったりして、こんどは、ぼくたちが、おいしゃさんになって、もう一度、水のわをつなげたいです。

9/６(金)避難訓練～須田保育園と合同実施

地震後、大雨による水害被害に対応した避難訓練をしました。体育館から校舎３階への避難移動に、子供たちの表情も真剣でした。災害発生時の子供たちも「安全に避難するための『１つ前の行動』」について学ぶことができました。

尚、須田小の災害時の対応方針は下のサイトをご覧ください。　↓

須田小ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ
ここ→

SUDA